

XINJIANGWAISHIXUEBAO

新疆外事学报

新疆外交学会



1

2008

内部刊物·免费交流

扩大中日青年交流

促进中日友好发展

○焦 健

中日两国是一衣带水的友好邻邦，有着两千多年的友好往来历史，在全球经济一体化的今天，和平与发展仍然是当今世界的主题。环境保护、生态环境改善、能源紧缺、地区稳定和加速发展世界各国经济都成为当今的热点问题。加强中日青少年之间的交流与合作不仅是增进和促进中日青少年之间的相互了解和友谊，也是维护世界和平的重要任务。

新疆大学作为新疆维吾尔自治区唯一进入“国家 211 工程”建设的省部共建全国综合性重点大学，八十多年来，为国家和自治区培养了大批高层次人才，为新疆的教育事业、经济建设和社会进步做出了重大贡献。

同时新疆大学高度注重国际交流与合作，积极加强同世界各国大学之间的教育交流与科研合作，近些年特别推进了同日本各大学之间的教育交流与科研合作。

新疆大学先后与日本奈良女子大学、日本创价大学、日本立正大学、日本东京理科大学、日本八户工业大学、日本京都大学和日本立命

馆大学等十多所大学和学术机构签署了校际合作协议，并在学生教师互换、进行科研合作、举办国际会议、学生研修等方面进行了广泛的交流与合作，并且取得了丰硕的成果。目前，正在积极开展的中日学生沙漠绿化研修项目意义重大，影响深远。

新疆大学与日本在学生交流方面，由八十年代初期的日本留学生来校进行汉语进修学习、汉语短期班、汉语暑期强化班、少数民族语言等方面的进修等方式，逐步发展到日本留学生进入我校相关本科专业学习。通过在新疆大学的学习，日本青年对中国文化、新疆历史、丝绸之路、新疆民族歌舞、新疆民俗风情，以及对新疆的经济建设与改革发展都有了较为全面地了解。加深了中日学生之间的相互了解、相互理解，增进了相互间的友谊并使他们学有所成、学有所用。新疆大学成了促进中日友好、宣传中国、宣传新疆的重要基地。

新疆地理环境特殊，三山夹两盆地，堪称世界第二、中国第一的大沙漠——塔克拉玛干大

沙漠就位于新疆的塔里木盆地，中国第二大沙漠——库尔班通古特沙漠位于准噶尔盆地。随着全球气候变暖，新疆沙漠化的问题不容回避，已成为当今社会关注的热点和焦点问题。

中国政府为了改善生态环境，投入大量的人力、财力和物力进行了沙漠绿化活动并取得了显著的成绩。国际上很多友好的有志之士也极为关注和支持新疆的沙漠绿化工作，特别是日本的友好人士和大学生们普遍认为人类共同拥有一个地球，在新疆防风治沙不仅对中国的环境保护意义重大，对保护日本的环境也有积极的作用。日本朋友提出，新世纪要造就没有风沙困扰、绿树成荫的新丝绸之路的奋斗目标。

新疆大学以此为契机，积极开展了沙漠绿化活动。在新疆大学建立了沙漠绿化协会。在北疆的古尔班通古特沙漠边缘建立了 5000 多亩的沙漠绿化基地。关注和积极支持这一项目的日本友好人士在日本成立了新疆大学沙漠绿化协会日本支部。除向沙漠绿化协会提供资金支持外，每年春季和秋季还组织日本的大学生和沙漠绿化志愿者来新疆大学的沙漠绿化基地进行沙漠绿化研修，推进日本青年学生义务开展沙漠绿化活动。

自 2005 年以来，日本东京工科学院、日本神田外语学院和新疆大学沙漠绿化协会日本支部的理事分 5 批近 200 多名大学生，与新疆大学的学生在基地进行沙漠研修，2008 年日本香川大学也将参加到该项沙漠绿化活动中来。

在沙漠绿化活动中，中日大学生竭诚合作、团结友爱、互帮互助、吃苦耐劳，充分展示了当今中日大学生的优良品质。中日大学生同吃、同

行、同学习、同劳动，通过对新疆地理地貌、生态环境、沙漠植被、沙漠绿化等课堂讲座，沙漠实地考察、沙漠打网格、荒漠挖坑、种苗、浇水等艰苦的劳动和对新疆名胜古迹、文物历史、风土人情的考察了解和切身体验，尤其是通过中日大学生手拉手的联欢活动，使他们对新疆有了全新、全面的了解；使他们感受到了当地群众在恶劣的环境中生存的艰难以及他们与自然抗衡的勇气和博大胸怀，从而激发了他们开展沙漠绿化、改善生态环境的热情和决心。日本大学生看着自己用双手挖坑种下的树苗，露出喜悦的笑容，他们为能在新疆改善生态环境做出的奉献而感到高兴。

我们深深感到，合作绿化沙漠的意义远远超越了事物本身的意义。这些新世纪的中日大学生不仅是新疆大学沙漠绿化基地防沙造林的先锋，而且是二十一世纪中日友好的桥梁、纽带和友好种子。

我们期望这项利在当代、功在千秋的中日大学生沙漠绿化事业不仅为新疆人民，也为中国乃至世界人民造福。我们也希望能有更多的日本友好人士以及各国的有志之士、大学生积极踊跃地参加到这项有意义的沙漠绿化合作活动中来。

（作者为新疆大学国际交流与合作处处长、新疆外交学会理事）



(記事の日本語訳)

中日間の青年交流を拡大し
中日友好の発展を促進せよ

焦 健

中日両国は、一衣帯水の隣国としての友好関係にあり、2000年以上に渡る友好往来の歴史があります。グローバル化の今日において、和平と発展は依然として現代社会の重要課題であります。

特に、環境保全、生態環境の改善、エネルギー不足、地域の安定及び各国の急速な経済発展は、今日の注目すべき問題であります。

中日間の青少年の交流と協力関係を促進することは、相互間の理解と友情を増進するだけでなく、世界の平和維持に貢献する重要な役割でもあります。

新疆大学は、新疆ウイグル自治区と教育省により創設された総合大学ですが、“国家 211 工程”に指定された新疆で唯一の大学であります。

創立 80 年の今日まで、国家と新疆ウイグル自治区に数多くの人材を送り出し、人材養成と通じて経済発展や社会の発展に大きな貢献をしてまいりました。

同時に、新疆大学は国際交流を高く重視しており、世界各国の大学との国際交流と合同研究を積極的に推進、近年は特に日本の各大学との教育交流と合同研究を推進しています。

具体的には、日本の奈良女子大学、創価大学、立正大学、東京理科大学、八戸工業大学、京都大学、立命館大学など十数の大学と提携をし、学生や教師の交換留学や科学研究協力、共同で国際会議を開催したり、学生研修の受け入れなど幅広い交流を行って素晴らしい成果をあげています。

目下のところ、中日学生による沙漠緑化研修プログラムを推進しており、大変有意義で大きな影響力のある研修プログラムであります。

新疆大学に在籍する日本人学生との交流については、80年代初期の日本語研修が始まりで、短期間の日本語クラス、夏休み期間の日本語強化クラス、少数民族の日本語学クラスの開設を経て関連学部にも波及し、日本語の専門学科の開設にまで発展しました。

日本人学生も新疆大学での勉強を通じて、中国の文化、新疆の歴史、シルクロード、民族舞踊や風俗を学ぶことで、中国及び新疆での経済建設と改革発展についてよく理解し、結果、新疆大学生との相互理解が深まり、そして強い友情で芽生え、よって新疆大学は、中国と新疆を日本にアピールできる重要な基地となりました。

新疆は、3つの山脈が2つの盆地を挟む特殊な地理環境を持っており、世界第二位、中国第一位の沙漠であるタクラマカン沙漠はタリム盆地にあり、また中国第二位の沙漠であるコルバントック沙漠はジュンガル盆地に位置する。

地球規模の温暖化の進行に伴い、新疆ウイグル自治区の沙漠化問題が避けて通れない問題となり、既に全社会的にクローズアップされた注目の問題になってきています。

中国政府は、生態環境の改善のために大量の人力、財力、物力を投じて沙漠緑化活動を行っており、著しい実績をあげています。

この沙漠緑化活動の状況に注目し、支援を希望するたくさんの海外の有志がいますが、特に日本の友好的大学生たちは、人類はみな共同で1つの地球を有しているとの考え、新疆での防風治沙活動は中国の環境保全にとって重大であるだけでなく、日本の環境を守るうえでも積極的に関与していくことが大切であると認識されている。

日本の友人は次のように提唱しています

新世紀において、風沙の被害を乗り越えるため、沙漠に木を植え森を作り、新しい緑のシルクロードを作ることが我々の目標であると。

新疆大学はこれを契機に、沙漠緑化活動を積極的に展開し、新疆大学内に沙漠緑化協会を設立し、またコルバントウク沙漠の周辺に5000ムーの沙漠緑化基地を設けました。

この沙漠緑化プロジェクトに注目し支援を行っている日本の友人たちは、日本国内に新疆大学沙漠緑化協会日本支部を設立し、協会本部に資金的支援を提供しているだけでなく、毎年春から秋にかけて日本人の大学生やボランティアの人々を新疆大学沙漠緑化基地に派遣し、沙漠緑化活動を行っています。

2005年より日本の東京テクニカルカレッジ、神田外語学院、及び日本支部理事一行が5回にわたり、延べ200名の学生や新疆大学生が参加して緑化活動を行い、2008年には香川大学も参加します。沙漠緑化活動の中で中日両校の大学生達は、誠意をもって協力し合い、団結し合い、相互に助け合い、苦勞に耐え、一生懸命に働き、両国大学生達の素晴らしい素質を十分に発揮してくれました。また中日の大学生達は、食事の時も、行動する時も、勉強する時も、働く時も、常に共同で行いました。大学生達は、新疆の地理や生態環境、沙漠で植樹、沙漠緑化などの講義を受けた後、現地に出向き、沙漠を視察し、困格（草方格）を作り、穴を掘って苗を植え、水をやる、などの肉体労働を行い、また新疆の名所旧跡や文物歴史、人情や風俗などを、身をもって体験することで理解を得られました。中日大学生達は、ハンドバイハンド（手をつないだ輪）をお互い共通の言葉にして活動を行い、新疆に対する理解度がさらに深まり完璧なものとなりました。また、現地の人々が劣悪で厳しい自然環境の中で生きていることの大変さを知り、またその自然環境と戦う勇気と心意気を感じてもらうこともできました。これによって、沙漠緑化活動や生態環境の改善に関して強い情熱と決意が生まれ、日本の大学生達は自分自身で穴を掘り、植えた苗を見て、嬉しい笑顔を見せ、新疆の生態環境改善に貢献できる喜びを大いに感じてもらっていると思います。

我々は、沙漠緑化活動に協力してくれる意義の方が、沙漠緑化プロジェクト本来の意義よりもはるかに大きな意義を持つものと思っております。

それは、新しい世紀を生きるこれら中日大学生達が新疆大学沙漠緑化基地で防沙造林活動を行うことは、パイオニアとしてだけでなく、21世紀における中日友好の懸け橋となる“友好の種”であるからです。我々は、今の時代に有益であり、また将来に向けて功績が残る中日大学生による沙漠緑化事業が、新疆の人々だけでなく中国全土及び世界中の人々に幸福をもたらすものと心から信じ、期待をしています。今後は、更に多くの友人たち、各国の有志、大学生がこの意義ある沙漠緑化協力活動に積極的に参加してくれることを心より願っています。

（作者：新疆大学国際交流合作处处长、新疆外交学会理事）